わがまちの教育（教育委員会）

香美市の起源はここにあり

刈谷我野遺跡（かりやがの）

刈谷我野遺跡は香美市香北町太郎丸字後口屋敷に所在する遺跡です。平成十五年晩秋から平成十七年初頭まで、開発に伴う発掘調査が断続的に行われました。

これまでの調査成果は『刈谷我野遺跡Ⅰ』（香北町教育委員会二〇〇五）・『刈谷我野遺跡Ⅱ』（香美市教育委員会二〇〇七）に詳しく書かれています。本誌ではその成果について簡単にお伝えします。

遺跡の年代

刈谷我野遺跡の年代について、出土した炭化物を国立歴史民俗博物館年代測定研究グループ（代表：西本豊弘教授）にご協力いただき、年代測定を行いました。その結果、古くは炭素年代で約八九〇〇年前、新しくは約八六〇〇年前の年代値が出ています。この年代は縄文時代早期にあたります。

九州とのつながり

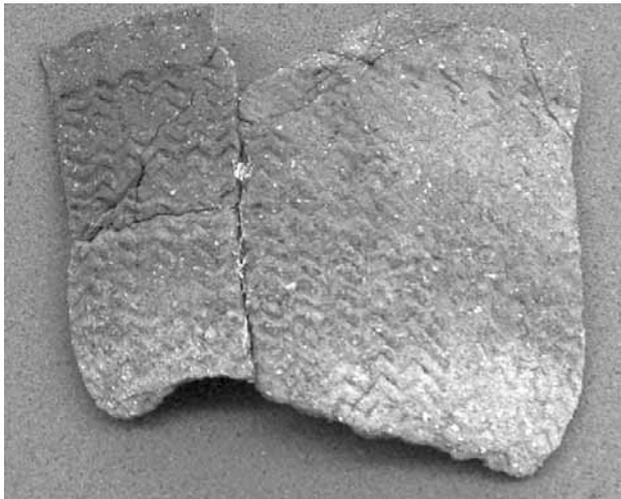
縄文時代早期という時期は、出土した遺物の特徴からもいえます。全体で約一万点の出土土器片がありますが、おおよそ九割が無文土器、残りの一割が押型文土器という有文土器で占められています。無文土器は、大分県を中心とした東九州の縄文時代早期のものと似ており、押型文土器は、近畿以東、とりわけ中部高地を発信元として伝わったものです。それらを受容しながら、刈谷我野遺跡独特の土器を製作して、使用していたことがうかがえます。

そして、興味深い石器も出土しています。その形状から〝石鹸形磨石〟と呼ばれますが、この石器が相当数出土しています。中四国地方でこれだけの出土量のものが、時期的にまとまりを持って出土したのは刈谷我野遺跡が初めてです。この形態を示す石器を集成すると、南九州から奈良県、三重県までの太平洋沿岸に沿うように主体的な分布が見られます。もしかしたら黒潮ルートがあったのかもしれません。

香美市の起源

刈谷我野遺跡の調査は、今まで不明だった縄文時代早期の縄文集落の一端を明らかにしました。また、遠隔地との交流があったことを示しています。そして、香美市最古の集落がそこで営まれていたことを示しているために、現時点では香美市の起源は刈谷我野遺跡にあるということがいえます。

出土品

▶押型文土器

▲石鹸形磨石

▶無文土器

この遺跡の範囲はまだ西に広がっており、その遺存状況は極めて良好な可能性があります。ぜひともこの遺跡がさまざまな形で記録・活用されていくよう、市民の皆さまのご協力をお願いします。

（調査員・松本　安紀彦）

田尻遺跡が埋蔵文化財包蔵地に指定されました

香北町韮生野（にろうの）五七二周辺で遺跡が発見されました。新たな周知の埋蔵文化財包蔵地「田尻（たのしり）遺跡」として昨日十月に指定されましたので、ここにお知らせします。

香北町制時代に計画・執行された児童公園整備事業に伴う事前の試掘確認調査で、弥生時代後期（約二千年前）の幾つもの土器が潰れた状態で出土しました。これは土器捨て場として解釈できるため、田尻遺跡は集落遺跡として考えられます。

この遺跡は香美市の貴重な歴史的文化的資産であり、香美市の歴史を語るうえで欠かせません。近くには東下タナロ遺跡・西オソバ遺跡・美良布遺跡があり、大川上美良布神社は全国的に知られたお社です。

▶田尻遺跡

これらの遺跡および文化財は、地域と国民一人ひとり共有の財産であるため、国の定めた文化財保護法により、その保護と活用が定められています。該当地で住宅建築や農地の天地換え等の開発行為を行う場合には、書類の提出等が事前に必要になります。その際には香美市教育委員会生涯学習課（☎53－1082）にご連絡をお願いします。